

令和4年度

学生募集要項

〔 入学案内 〕
〔 出願書類添付 〕



独立行政法人国立高等専門学校機構
福井工業高等専門学校

National Institute of Technology(KOSEN), Fukui College

〒916-8507 福井県鯖江市下司町

TEL (0778) 62-8290 (学生課直通)

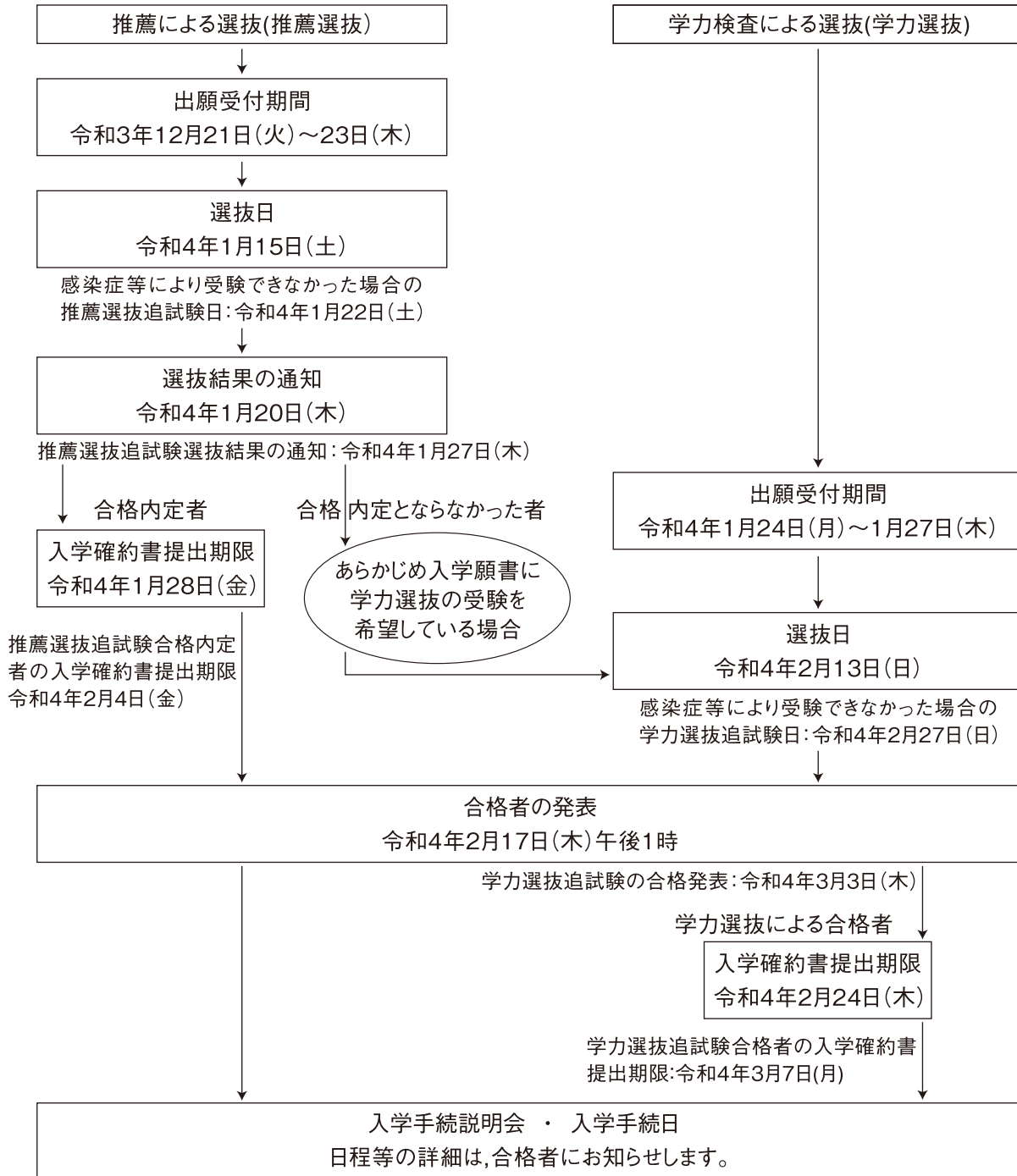
FAX (0778) 62-2490 (学生課直通)

E-mail nyushi@fukui-nct.ac.jp

新型コロナウイルス感染症の影響により、学生募集要項の内容に変更が生じる場合があります。変更がある場合は、本校ホームページにてお知らせしますので、最新の情報を確認するよう留意してください。

【本校ホームページ】 <https://www.fukui-nct.ac.jp/>

令和4年度学生募集 日程概要



入学者選抜に関する問い合わせ先は, 次のとおりです。

独立行政法人国立高等専門学校機構
福井工業高等専門学校 学生課 入学試験係
〒916-8507 福井県鯖江市下司町
電話 (0778) 62-8290 (学生課入学試験係)
(0778) 62-1111 (時間外)
FAX (0778) 62-2490 (学生課)
E-mail nyushi@fukui-nct.ac.jp

目 次

I	入学者の選抜，募集人員，アドミッション・ポリシー及び出願資格	
1	入学者の選抜	1
2	募集人員	1
3	アドミッション・ポリシー	1
4	出願資格	2
II	推薦による入学者の選抜	
1	推薦要件	3
2	出願手続	3
3	選抜方法	5
4	選抜当日の注意	5
5	選抜結果の通知	6
6	入学確約書の提出	6
7	合格内定とならなかった者の学力選抜の受験	6
8	追試験の実施	6
III	学力検査による入学者の選抜	
1	出願手続	7
2	選抜方法	8
3	学力選抜受験地	8
4	学力選抜当日の注意	9
5	入学確約書の提出	9
6	追試験の実施	9
IV	合格者の発表	
1	掲示による発表	10
2	ホームページによる発表	10
3	合格通知書の交付	10
V	受験上の特別な措置や修学上の特別な配慮を必要とする場合の事前相談	10
VI	入学手続説明会	10
VII	福井工業高等専門学校入学者選抜学力検査を受験した者に係る 入試成績の簡便な方法による開示について	11
VIII	入学者選抜に関する個人情報の取扱いについて	12
IX	その他	13
X	学力選抜受験地案内図	14
XI	入学案内	
1	本校の概要	15
2	本校の使命	15
3	ディプロマ・ポリシー	15
4	カリキュラム・ポリシー	17
5	学科案内	20
6	クラス編成	21
7	各種施設・学生会活動	21
8	入学時に要する経費	21
9	入学料・授業料の免除及び入学料徴収猶予	22
10	奨学制度	22
11	学生保険制度	23
12	学寮	23
13	卒業後の進路	23

出願書類用紙（綴じ込み）

入学願書，推薦書，自己推薦書，調査書，写真票・受験票，振込依頼書，チェックシート

令和4年度学生募集要項

I 入学者の選抜，募集人員，アドミッション・ポリシー及び出願資格

1 入学者の選抜

入学者の選抜は，推薦による選抜(推薦選抜)と，学力検査による選抜(学力選抜)の二つの方法で行います。

2 募 集 人 員

各学科の募集人員は，次のとおりとします。

学 科	募 集 人 員	各学科とも，募集人員のうち28名は推薦による募集人員とします。
機 械 工 学 科	40名	
電 気 電 子 工 学 科	40名	
電 子 情 報 工 学 科	40名	
物 質 工 学 科	40名	
環 境 都 市 工 学 科	40名	
計	200名	

※推薦による選抜で欠員が生じた場合は，学力検査による選抜で補充します。

※推薦による選抜第2志望での入学者及び学力検査による選抜での入学者は，1年の成績等による制限はありますが2年進級時に転学科することが可能です。

3 アドミッション・ポリシー

求める学生像（本科共通）

福井高専では，基礎学力が備わっていて，本校が目指すものづくり及び環境づくりに関する学習に興味があり，技術者としてグローバルな視野を持って産業の発展に貢献したいという気持ちを強く持ち，そのために新しい目標に向かっていつもチャレンジをし，仲間と共同して課題を考え解決する能力を身に付けようと積極的に行動できる人を求めます。

各学科の求める学生像

機械工学科

機械工学科では，さらに次のような人を求めています。

- (1) 自動車，飛行機，ロボットなどの機械システムや，環境，福祉，宇宙工学などの分野に興味がある人
- (2) サイエンスを学び，ものづくりに創造性を発揮して，人間社会に貢献したい人
- (3) 機械を創る材料，動かすエネルギー，制御する情報など幅広い技術を身に付けたい人

電気電子工学科

電気電子工学科では，さらに次のような人を求めています。

- (1) 電気自動車や太陽光発電などに使われる環境にやさしいクリーンエネルギーや新素材技術を学びたい人
- (2) ロボット，システム，コンピュータなどを動かすための電子制御やプログラミング

グ技術を学びたい人

- (3) 情報家電や光通信などに使用する電子回路や情報通信技術を学びたい人

電子情報工学科

電子情報工学科では、さらに次のような人を求めています。

- (1) コンピュータの構造や仕組みに興味があり、高度なプログラミング技術を習得したい人
- (2) ネットワークを活用したり、AI ロボットを動かすプログラムを作りたい人
- (3) 最先端のICTシステム・サービスの開発をやってみたい人

物質工学科

物質工学科では、さらに次のような人を求めています。

- (1) 化学と生物の力により人々の健やかな生活に貢献したい人
- (2) 化学的手法を用いて有用物質や新しい材料を生み出すことに興味がある人
- (3) 微生物や遺伝子組換え技術等の生物機能を活用した物質生産や環境浄化に興味がある人

環境都市工学科

環境都市工学科では、さらに次のような人を求めています。

- (1) 自然と共生したくらしを営む環境づくりに興味がある人
- (2) 快適なくらしを共有するための建物とまちづくりに興味がある人
- (3) 災害から人々のくらしを守るシステムづくりに興味がある人

入学者選抜の基本方針

- (1) 推薦による選抜

推薦書、調査書、作文及び面接の結果を総合的に評価して選抜します。

- (2) 学力検査による選抜

調査書及び学力検査の結果を総合的に評価して選抜します。

学力検査は、理科、英語、数学、国語及び社会の5教科による試験とします。

4 出願資格

出願資格は、次のいずれかに該当する者としてします。

- (1) 中学校もしくは、これに準ずる学校を卒業した者又は令和4年3月に卒業見込みの者
- (2) 義務教育学校を卒業した者又は令和4年3月に卒業見込みの者
- (3) 中等教育学校の前期課程を修了した者又は令和4年3月に修了見込みの者
- (4) 外国において、学校教育における9年の課程を修了した者又は令和4年3月に修了見込みの者
- (5) 文部科学大臣の指定した者
- (6) 文部科学大臣が中学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者又は修了見込みの者
- (7) 就学義務猶予免除者等の中学校卒業認定規則（昭和41年文部省令第36号）により、中学校を卒業した者と同等以上の学力があると認定された者
- (8) その他相当年齢に達し、本校が中学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者

Ⅱ 推薦による入学者の選抜

1 推薦要件

令和4年3月に中学校もしくは義務教育学校を卒業見込みの者又は中等教育学校の前期課程を修了見込みの者及び文部科学大臣が中学校の課程と同等課程を有するものとして認定した在外教育施設（以後、在外教育施設という。）の当該課程を修了見込みの者で、次の要件を備え、学校長が推薦するものとします。

- (1) 本校への入学意志が強固であること。
- (2) 志望学科に対して、適性、興味及び関心があること。
- (3) 人物が優れ、調査書の各記録が優良であること。
- (4) 次のアからウのいずれかに該当すること。

ア 「学習の記録」における第2学年及び第3学年の9教科の評定の合計が、次のいずれかの基準を満たしている者。ただし、卒業（修了）見込者の第3学年は11月末日現在とする。

- ア 第2学年、第3学年ともに5段階評定の場合、66以上
- イ 第2学年が5段階評定、第3学年が10段階評定の場合、99以上

イ 科学や技術の分野に強い関心を有し、次のいずれかに該当する者。ただし、評定の基準は上記アの(ア)の場合は62以上、(イ)の場合は93以上とする。

- ア 国、地方公共団体又は民間の団体が主催する科学や技術の分野に関するコンテスト等において優れた成果を収めた者
- イ 課外活動（生徒会活動・部活動・社会貢献活動）等において優れた成果を収めた者

ただし、成果は中学校在学時のものに限りします。

ウ 第2学年又は第3学年の評定が算出できないが所属学校長が上記ア又はイを満たすと判断した帰国生で卒業・修了見込みの者、在外教育施設の当該課程を修了見込みの者。

ただし、日本国籍を有する者あるいは日本国の永住許可を得ている者に限る。

※推薦要件ウにて出願の場合は、令和3年11月22日（月）までに、本校学生課入学試験係にご連絡ください。ご連絡のない場合は、この要件での出願はできません。

2 出願手続

(1) 出願受付

受付期間	令和3年12月21日(火)から令和3年12月23日(木)まで
受付時間	午前9時から午後4時まで (郵送の場合は、12月23日(木)午後4時までに必着のこと)
受付場所	独立行政法人国立高等専門学校機構 福井工業高等専門学校 学生課 入学試験係 〒916-8507 福井県鯖江市下司町

(2) 出願書類等

推薦による選抜において、ア要件、イ要件、ウ要件いずれも2学科まで志望できます。第2志望を希望しない場合は、入学願書の推薦による入学志願欄の志望学科欄に斜線を引いてください。第2志望を記入した場合、第2志望も選考の対象となります。合格内定となった場合は、第1志望、第2志望にかかわらず、学力検査による選抜を受験できません。

合格内定とならなかった場合に学力検査による選抜の受験を希望する者は、「合格内定とならなかった場合の学力選抜受験希望の有無」の欄の「有」に○をして、学力検査による入学志願欄の志望学科欄に志望学科を記入してください。3学科まで志望できます。推薦選抜と違う学科を志望してもかまいません。

「推薦書」、「自己推薦書」、「調査書」の書き込み可能な電子ファイルを用意しています。本校ホームページからダウンロードしてご利用いただけます。

出願に必要な書類等は、次のとおりです。

出 願 書 類 等	摘 要
ア 入 学 願 書	所定の用紙により、必要事項を記入してください。 志望学科については、入学願書の裏面の記入上の注意「4」をよく読んで記入してください。
イ 推 薦 書	所定の用紙（※）により、学校長が作成したものとしします。
ウ 自己推薦書	所定の用紙（※）により、志願者本人が作成してください。（推薦要件イ、ウのみ）
エ 調 査 書	所定の用紙（※）により、学校長が作成したものとしします。
オ 写 真 票・ 受 験 票	所定の用紙により、必要事項を本人が記入し、写真票の所定欄に写真を貼ってください。 写真は、令和3年11月以降に撮影したもので、上半身脱帽、正面向き、縦6cm、横4.5cmのものを貼ってください。
カ 検 定 料	16,500円 ① 本校所定の振込依頼書により、志願者本人の名義で金融機関の窓口から振り込んでください。入学願書の検定料振込受付証明書（貼付場所）に検定料振込受付証明書を貼付してください。 なお、振込時に別途必要な振込手数料は志願者本人の負担となります。 ② 振込受取書及び検定料振込受付証明書は、金融機関の受領印があることを確認のうえ受け取ってください。 ③ 振込受取書は本人の控えとして、受験票が手元に届くまで大切に保管してください。
キ 受 験 票 送付用封筒	郵送で出願する場合は、長形3号（120mm×235mm）の封筒に、志願者の住所、郵便番号及び氏名を記入し、354円分の切手（速達料金分）を貼ってください。

※本校ホームページ（<https://www.fukui-nct.ac.jp/examination/middle-school/>）から令和4年度様式をダウンロードしてご利用いただいても結構です。

※推薦要件ウでの出願の場合には、別途、海外在住状況説明書が必要となります。令和3年11月22日（月）までに、本校学生課入学試験係に請求してください。また、在外時における成績証明書等の提出を求める場合があります。

(3) 出願方法

学校長は、志願者の出願書類等を取りまとめて、提出してください。

なお、郵送する場合は、封筒の表に「入学願書在中」と朱書きし、必ず「書留郵便」にしてください。

(4) 受験票の交付

受験票は、次のように交付します。

ア 出願書類等を持参により受理したときは、その場で交付します。

イ 出願書類等を郵送により受理したときは、受験票送付用封筒により郵送します。

なお、受験票が願書受付締切日から3日間を過ぎても届かないときは、本校に照会してください。

3 選 抜 方 法

(1) 推薦要件の(4)のアによる選抜は、調査書を主とし、これに作文、面接の結果を加え、推薦書を考慮し、総合して判定します。

(2) 推薦要件の(4)のイによる選抜は、調査書を主とし、これに作文、面接、自己推薦書及び推薦書を考慮し、総合して判定します。

(3) 推薦要件の(4)のウによる選抜は、調査書、作文、面接、自己推薦書及び推薦書を考慮し、総合して判定します。

注：推薦要件アによる面接は15分程度、推薦要件イ,ウによる面接は20分程度とします。

(4) 選抜の期日及び場所

期 日	令和4年1月15日（土）
場 所	福井工業高等専門学校 福井県鯖江市下司町 （「X学力選抜受験地案内図」参照）

(5) 作文、面接

作文・面接	指定する時間（後日、学校長あてに通知します。）
-------	-------------------------

作文(600字程度)は課題により、面接は個人面接により実施します。

4 選抜当日の注意

(1) 指定された集合時間までに本校正面玄関にお越しください。

(2) 受験者は、受験票、筆記用具を持参してください。

なお、受験票を紛失した場合は、必ず受付に届け出て指示を受けてください。

(3) 上履きは、必要ありません。

5 選抜結果の通知

選抜の結果は、令和4年1月20日(木)午後、学校長あてに発送します。

なお、必要な場合は、学生課において選抜結果の通知書を同日午後1時から午後2時までの間に、志願者の学校の教員に交付します（印鑑を必ずご持参ください）。

6 入学確約書の提出

合格内定となった者は、学校長の確認を得た入学確約書を令和4年1月28日(金)午後4時までに学生課入学試験係へ提出してください。

また、合格内定となった者は、第1志望、第2志望にかかわらず、学力選抜を受験できません。

なお、入学確約書を期日までに提出しない者は、本校に入学する意志がないものとして取り扱います。

7 合格内定とならなかった者の学力選抜の受験

推薦による入学者の選抜の結果、合格内定とならなかった者で、あらかじめ入学願書に学力選抜の受験を希望している場合は、学力選抜を受験することができます。この場合、再度出願書類等の提出及び検定料の納付の必要はありません。

8 追試験の実施

「推薦による入学者の選抜」において、下記に掲げる受験生を対象として追試験を実施します。

- (1) 対象者：感染症等に罹患、又は罹患している疑いがある者で、医師の診断書又はそれに類すると判断できるものを有する者
- (2) 追試験日：令和4年1月22日(土)
- (3) 受 験 地：本校(福井高専会場)
- (4) 合格内定通知日：令和4年1月27日(木) 午後（学校長あてに発送します）
- (5) 入学確約書の提出期限：令和4年2月4日(金) 午後4時

Ⅲ 学力検査による入学者の選抜

1 出 願 手 続

(1) 出願受付

受 付 期 間	令和4年1月24日(月)から令和4年1月27日(木)まで
受 付 時 間	午前9時から午後4時まで (郵送の場合は、1月27日(木)午後4時までに必着のこと)
受 付 場 所	独立行政法人国立高等専門学校機構 福井工業高等専門学校 学生課 入学試験係 〒916-8507 福井県鯖江市下司町

(2) 出願書類等

出願に必要な書類等は、次のとおりです。

出 願 書 類 等	摘 要
ア 入 学 願 書	所定の用紙により、必要事項を記入してください。 ① 志望学科 学科は3学科まで志望できます。第2志望、第3志望があれば記入してください。第2志望、第3志望がない場合、志望学科欄に斜線を引いてください。 入学願書の裏面の記入上の注意「7」をよく読んで記入してください。 ② 受験地 入学願書の裏面の記入上の注意「8」をよく読んで受験地(P8の3)の表から希望する受験地を選んでください。
イ 調 査 書	所定の用紙(※)により、学校長が作成したものとしします。 出願資格(4)～(8)に該当する場合は、調査書に替え、厳封した履修証明書又は成績証明書としします。
ウ 写 真 票・ 受 験 票	所定の用紙により、必要事項を本人が記入し、写真票の所定欄に写真を貼ってください。 写真は、令和3年11月以降に撮影したもので、上半身脱帽、正面向き、縦6cm、横4.5cmのものを貼ってください。
エ 検 定 料	16,500円 ① 本校所定の振込依頼書により、志願者本人の名義で金融機関の窓口から振り込んでください。入学願書の検定料振込受付証明書(貼付場所)に検定料振込受付証明書を貼付してください。 なお、振込時に別途必要な振込手数料は志願者本人の負担となります。 ② 振込受取書及び検定料振込受付証明書は、金融機関の受領印があることを確認のうえ受け取ってください。 ③ 振込受取書は本人の控えとして、受験票が手元に届くまで大切に保管してください。
オ 受 験 票 送付用封筒	郵送で出願する場合は、長形3号(120mm×235mm)の封筒に、志願者の住所、郵便番号及び氏名を記入し、354円分の切手(速達料金分)を貼ってください。

※本校ホームページ(<https://www.fukui-nct.ac.jp/examination/middle-school/>)から令和4年度様式をダウンロードしてご利用いただいても結構です。

(3) 出願方法

ア 学校長は、卒業（修了）見込みの者及び学校を卒業（修了）した者の出願書類等を取りまとめて、提出してください。

イ 既卒者の方で、出身学校経由での出願が難しい場合は別途ご相談ください。

ウ 出願資格の(4), (5), (7), (8)に該当する場合は、直接本人が提出してください。

エ 郵送する場合は、封筒の表に「入学願書在中」と朱書きし、必ず「書留郵便」にしてください。

(4) 受験票の交付

受験票は、次のように交付します。

ア 出願書類等を持参により受理したときは、その場で交付します。

イ 出願書類等を郵送により受理したときは、受験票送付用封筒により郵送します。

なお、受験票が願書受付締切日から3日間を過ぎても届かないときは、本校に照会してください。

2 選 抜 方 法

(1) 入学者選抜学力検査にマークシート方式による解答を導入しています。

(2) 学力検査による選抜は、学力検査の結果を主とし、これに調査書を加味し、総合して判定します。

(3) 学力選抜の期日

期 日	令和4年2月13日(日)
-----	--------------

(4) 学力検査教科及び検査時間

理 科	英 語	数 学	国 語	社 会
9:30～10:20	10:50～11:40	12:10～13:00	13:50～14:40	15:10～16:00

3 学力選抜受験地

場 所	本 校（ 福 井 高 専 会 場 ）	福井工業高等専門学校（鯖江市下司町）
	最 寄 り 地 等 受 験 制 度 会 場	

* 「学力検査による選抜」の受験地について、本校(福井高専会場)のほか、「最寄り地等受験制度」により、「受入れ可」となった会場も学力選抜受験地として選択することができます。

「最寄り地等受験制度」について

国立高等専門学校機構では、「学力検査による選抜」において、出願する高専に関係なく、全国にある51の国立高等専門学校とその他設置している会場のどこでも受験が可能な『最寄り地等受験制度』を導入しています。受験生は本校が設置する会場以外に、国立高等専門学校機構ホームページの『最寄り地等受験制度会場一覧』から、受験したい会場を希望することができます。

ただし、会場の収容人数等の都合で必ずしも希望に添えないこともありますので、希望する受験生は、本校まで、必ず事前の相談をお願いします（下記に記載している本校の「主たる受験地」は、事前相談は不要です）。

【事前相談問い合わせ先】

(機構ホームページ)

窓 口：福井工業高等専門学校学生課入学試験係

電 話：0778-62-8290

相談期間：令和3年11月1日(月)～12月6日(月)

最寄り地等受験制度 会場一覧掲載先(国立高等専門学校機構ホームページ)

<https://www.kosen-k.go.jp/exam/admissions/index.html>

本校の主たる受験地：本校会場(福井工業高等専門学校)

※希望する会場の受入可否については、令和3年12月15日(水)までにお知らせします。

※「推薦による選抜」は、本制度の対象外です。

※事前相談期間締切後については、受け付けません。



4 学力選抜当日の注意

- (1) 受験者は、受験票、筆記用具(鉛筆は黒鉛筆(HB)、プラスチック製消しゴム)、昼食を持参してください。
- (2) 午前9時までに、受験票に指定された学力選抜受験地に集合してください。
- (3) 各教科の検査開始後、20分を経過した場合は、原則として受験できません。
また、1教科でも受験しないと受験資格を失います。
なお、受験票を紛失した場合は、必ず受付に届け出て指示を受けてください。
- (4) 本校(福井高専会場)は、上履きは必要ありません。
最寄り地等受験制度における会場については、各会場の指示に従ってください。

5 入学確約書の提出

学力検査による選抜で合格した者は、入学確約書を令和4年2月24日(木)午後4時までに学生課入学試験係へ提出してください。

なお、入学確約書を期日までに提出しない者は、本校に入学する意志がないものとして取り扱います。

6 追試験の実施

「学力検査による入学者の選抜」において、下記に掲げる受験生を対象として追試験を実施します。

- (1) 対象者：感染症等に罹患、又は罹患している疑いがある者で、医師の診断書又はそれに類すると判断できるものを有する者
- (2) 追試験日：令和4年2月27日(日)
- (3) 受験地：本校(福井高専会場)、最寄り地等受験会場(事前相談の結果「受け入れ可」となった場合)
ただし、国立高専以外の会場では、追試験を受験することができない場合もあります。
- (4) 合格発表：令和4年3月3日(木)午後1時(本校において掲示します)
- (5) 入学確約書の提出期限：令和4年3月7日(月)午後4時

IV 合格者の発表

推薦選抜及び学力選抜による合格者の発表は、次により行います。(電話等による判定結果の照会はできません。)

1 掲示による発表

令和4年2月17日(木)午後1時に、本校において掲示します。

2 ホームページによる発表

本校ホームページ上でも、同日午後1時以降に受験番号及び合格学科を発表します。
なお、ホームページアドレスは次のとおりです。

<https://www.fukui-nct.ac.jp/>

3 合格通知書の交付

- (1) 合格通知書は、学校長を経由して合格者に送付します(2月17日(木)午後1時に発送)。
なお、必要な場合は、学生課において合格通知書を発表当日の午後1時から午後2時までの間に、志願者の学校の教員に交付します(印鑑を必ず持参ください)。
- (2) 出願資格の(4)、(5)、(7)、(8)に該当する場合は、本人あてに直接送付します。

V 受験上の特別な措置や修学上の特別な配慮を必要とする場合の事前相談

心身に障がいがある場合等、解答方法や座席配置等について、受験上特別な措置が必要な場合、また入学後、修学上特別な配慮を必要とする入学志願者は、出願前に本校学生課入学試験係へご相談ください。

なお、事前相談後、健康診断書等を提出していただく場合がありますので、ご了承ください。

VI 入学手続説明会

合格者には、本校が指定する日に、入学手続きの説明会を行います。

なお、この説明会に出席しない場合は、本校に入学する意志がないものとして取り扱います。

Ⅶ 福井工業高等専門学校入学者選抜学力検査を受験した者に係る 入試成績の簡便な方法による開示について

受験者が希望する場合、下記により入試成績の開示を行います。

1 申請者

学力検査による入学者選抜の受験者本人に限ります。

(注) 推薦による選抜は、この制度による開示の対象となりませんので注意してください。

2 開示する入試成績

(1) 学力選抜の教科別得点（5教科）

(2) 志望学科におけるランク

(注) 「志望学科におけるランク」とは、合格者は合格学科におけるランク（2段階）、不合格者は第1志望学科におけるランク（3段階）を示します。

3 申請期間

受験した年の合格発表の翌日を起算日として7日後から 同年4月末日まで(当日消印有効)。

4 申請に必要な書類

① 福井工業高等専門学校入学者選抜試験（学力選抜）成績開示申請書

(注) 申請書は、学生課入学試験係にあります。本校ホームページからも印刷することができます。

② 本校受験票（コピーは不可、後日返却します。）

③ 返信用封筒（長形3号）に、入学願書に記載されている住所・氏名・郵便番号を明記の上、519円分の切手（書留郵便料金）を貼ってください。

5 申請方法

開示を請求する受験者本人が「4 申請に必要な書類①～③」を下記「8 問い合わせ先」あてに送ってください。

6 開示の方法

提出された返信用封筒を使用し、郵送により開示します。

(注) 申請から到着まで10日程度日数がかかる場合があります。

7 手数料

手数料は、徴収しません（無料）。

8 問い合わせ先

〒916-8507 福井県鯖江市下司町

独立行政法人国立高等専門学校機構 福井工業高等専門学校 学生課 入学試験係

電話 0778-62-8290

VIII 入学者選抜に関する個人情報の取扱いについて

入学志願者から提出された入学願書や調査書等に記載されている情報及び選抜に用いた試験成績・評価といった入学者選抜を通じて取得した個人情報は、入学者選抜や本校及び国立高等専門学校全体の教育制度・入学者選抜制度の改善のための調査・研究のために利用するとともに、合格者に対しては、次の目的のためにも利用します。

- (1) 入学後の教育・指導
- (2) 入学料，授業料の免除申請の審査
- (3) 奨学金申請の審査
- (4) 本校教育後援会及び同窓会の事務

IX そ の 他

- 1 受理した出願書類及び検定料は、返還しません。

ただし、次の場合は検定料の返還請求ができます。

- (1) 検定料を払い込んだが、出願しなかった（出願書類を提出しなかった又は受理されなかった）場合
- (2) 検定料を誤って二重に払い込んだ場合

＜返還請求の方法＞

①返還請求の理由，②氏名（ふりがな），③現住所，④連絡先電話番号，⑤振込口座の金融機関名，支店名，預金種別，口座番号，口座名義（志願者本人）を明記した「検定料返還請求書」（様式自由）を作成し，「振込受取書」を添付して下記送付先へ速やかに郵送すること（封筒には「返還請求書在中」と記入すること）。

返還請求期限 令和4年2月25日（金）午後5時必着

なお，返還に係る振込手数料は請求者の負担となります。

送付先 〒916-8507 福井県鯖江市下司町

独立行政法人国立高等専門学校機構 福井工業高等専門学校 総務課 財務係

- 2 災害救助法適用地域における災害で被害を受けた受験生への特例措置として検定料免除を行います。

- ・免除申請を希望する場合は，出願書類とともに「検定料免除申請書」に「り災証明書」を添付し提出してください。また，検定料の払い込みは行わないでください。検定料の払い込みをした場合は，還付の申し出が必要となります。
- ・「検定料免除申請書」は，学生課入学試験係にあります。

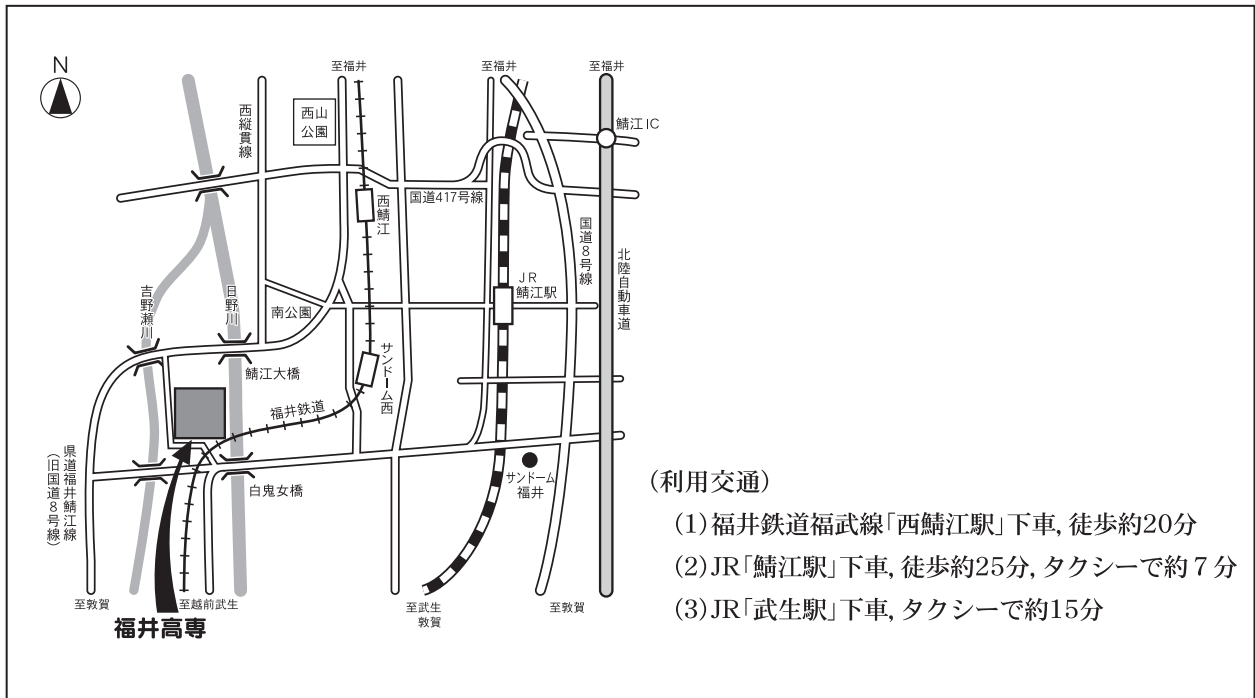
本校ホームページ（<https://www.fukui-nct.ac.jp/examination/middle-school/>）から様式をダウンロードして申請いただいても結構です。

- 3 提出した書類の記載事項の変更は，認めません。

- 4 提出した書類に事実と相違した記載があると判明した場合は，入学を取り消すことがあります。

X 学力選抜受験地案内図

〈本校検査場〉



XI 入 学 案 内

1 本校の概要

本校は中学校卒業生を受入れ、早期から、5年一貫の技術教育を行い、多様化、グローバル化した社会に貢献できる実践的技術者を育成する国立の高等教育機関です。本校では技術教育を行って技術立国を担い日本の未来を拓く有能なエンジニアを養成します。

本校卒業時には「準学士」と称することができます。さらに高度な科学技術の教育と密度の濃い研究指導を希望する学生のために、専攻科が設置されており、(独)大学改革支援・学位授与機構に学位の授与を申請し、審査に合格することで、「学士(工学)」を取得することができます。

本校では「環境生産システム工学」教育プログラムが編成されており、このプログラムを本科4、5年と本校専攻科で履修することにより、社会の要求水準を満たした教育を受けることができます。

2 本校の使命

(1) 基本理念

優れた実践力と豊かな人間性、創造性を備え、社会の多様な発展に寄与できる技術者を育成する。

(2) 養成すべき人材像

- 一、地球環境に配慮できる社会的責任感と倫理観を持った技術者(人間性)
- 一、科学技術の進歩を的確に見通す工学的素養を持った技術者(専門性)
- 一、調和と協調を意識して、国際的に活躍できる技術者(国際性)
- 一、幅広い知識を応用・統合し、豊かな発想力と実践力で問題解決できる技術者(創造性)

(3) 教育方針

- 一、技術者として必要かつ十分な基礎力と専門技術を習得させる。
- 一、個性を伸ばし、独創的能力の開発に努力する。
- 一、教養の向上に努め、良識ある国際人として成長を期する。
- 一、健康の増進に努め、身体的精神的に強靱な耐久力を育成する。
- 一、規律ある日常生活に徹し、明朗、闊達な資性の涵養を図る。

3 ディプロマ・ポリシー

福井高専は、「優れた実践力と豊かな人間性、創造性を備え、社会の多様な発展に寄与できる技術者を育成する」ために、次に掲げる人材を養成することを目的としています。

- 一、地球環境に配慮できる社会的責任感と倫理観を持った技術者(人間性)
- 一、科学技術の進歩を的確に見通す工学的素養を持った技術者(専門性)
- 一、調和と協調を意識して、国際的に活躍できる技術者(国際性)
- 一、幅広い知識を応用・統合し、豊かな発想力と実践力で問題解決できる技術者(創造性)

この目的を達成するために、卒業時点において学生が身に付けるべき能力(学習教育目標)を下記のように定めています。これら能力の獲得と本校各学科の教育課程に規定する所定単位(各学科のカリキュラム表を参照してください。)の修得をもって、人材像の達成とみなし、福井高専の卒業を認定し、準学士(工学)と称することを認めます。

福井高専の学生が卒業時点において身に付けるべき能力（教育目標）

RA 多様な文化や価値観を認識できる能力を身に付ける。

RB 数学とその他の自然科学，及び専門分野におけるものづくり，環境づくりに関する基礎能力を身に付ける。

RC 国際社会で活躍するためのコミュニケーション基礎能力を身に付ける。

RD 技術者に必要なデザインマインドを身に付ける。

RE 実践的能力と論理的思考能力を身に付ける。

機械工学科

機械工学科では，次の内容を教育目標として加えています。

ものづくりのための基礎的知識や技術を身に付けた創造性豊かな機械技術者となるために，機械技術者として必要な基礎学力，技術革新・高度情報化社会に対応できる能力，実践的能力および論理的思考能力を身に付ける。

電気電子工学科

電気電子工学科では，次の内容を教育目標として加えています。

ものづくりのための基礎的知識や技術を身に付けた創造性豊かな電気電子技術者となるために，電気電子技術者に必要な専門的かつ総合的な基礎力，幅広い専門分野に適応できる応用力，独創力およびコミュニケーション能力を身に付ける。

電子情報工学科

電子情報工学科では，次の内容を教育目標として加えています。

情報化社会の基盤となるハードウェア，ソフトウェア，ネットワーク及びコンピュータ制御技術で，種々の問題を解決できる有能な技術者となるために，電気電子工学及び情報工学の技術者として必要な基礎的な学力と能力，変化する IT 社会に対応できる応用力，実験実習や卒業研究をとおした実践的能力や創造能力，及びコミュニケーション能力を身に付ける。

物質工学科

物質工学科では，次の内容を教育目標として掲げています。

論理的思考能力を備えた実践的で創造性豊かな化学技術者となるために，必要な知識と技術に加えて，材料学または生物工学の分野における専門的能力を身に付ける。

環境都市工学科

環境都市工学科では，次の内容を教育目標として加えています。

社会資本を持続可能にする土木技術者と建築技術者となるために，それらの技術者に必要な基礎的な学力と能力，幅広い専門分野の理論に関する応用力，実験実習や卒業研究を通した実践力と創造力を身に付ける。

学際領域科目群

多様化する現代社会に通用する技術者となるために，本校全専門学科の教育課程の中に学際領域科目群を設け，次の内容を教育目標としています。

自分の専門分野の幅を広げ融合複合型の考え方を持った技術者となるため，他の工学分野の基礎的な学力と能力を身に付ける。さらに、自ら問題を発見し，問題解決のアイデアを提案することで、創造性，コミュニケーション能力，プレゼンテーション能力等の分野横断的な能力の基礎を身に付ける。

4 カリキュラム・ポリシー

ディプロマ・ポリシーに掲げる人材を育成するために、福井高専では、独立行政法人国立高等専門学校機構の定めた「モデルコアカリキュラム」を各学科において適正に配置し、「ものづくり」と「環境づくり」ができる技術者として、生涯にわたって自己研鑽ができる学習能力を身に付けた卒業生を社会に輩出するために、本校の教育理念で求める人材の育成を行います。

【教育課程編成の考え方】

- ① 学年進行とともに専門科目が多くなる「くさび形」カリキュラムであり、人間性と専門性を養成するために、専門科目と一般科目を連携させて科目を配置する。
- ② 創造性を引き出し、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を養成するための演習科目及び実験科目を多く配置する。
- ③ 多様化する現代社会に対応できる技術者となるために、他学科の科目も履修可能な学際領域科目群を3学年から配置する。
- ④ 国際的な視点をもった技術者となるために、コミュニケーション基礎能力を養成するための科目を配置する。
- ⑤ 実践的能力と論理的思考能力を養成するための総合的な科目を最終学年に配置する。

【学際領域科目群について】

学際領域科目群は、環境・エネルギー群、情報・制御群、材料科学群の3群からなり、学生はこれら3群から1群を選択し、自分の専門分野の幅を広げることができます。具体的には、以下の方針のもとに各群の教育課程を編成し、教育を実践しています。

- ① 融合複合された各群専門分野の基礎能力を育成するために、学際領域科目群に分野横断型科目を選択科目として配置する。
- ② 創造性、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力、チームワーク力等、分野横断的な能力の基礎を育成するために、PBL型・学科横断型グループ学習の科目を必修科目として配置する。

【評価方法】

各学科の教育課程における各科目の単位認定は、定期試験、レポート、口頭発表等、多様な方法を用いて評価します。可否基準は60点と設定しており、合格した者には所定の単位が与えられます。

機械工学科

機械工学科では、上記の方針に則り、ものづくりのための基礎的知識や技術を身に付けた創造性豊かな機械技術者を養成するために、具体的には以下を教育方針として教育課程を編成し、教育を実践しています。

- ① 1学年では、機械工学の導入レベルの能力を育成するために、力学、情報処理およびものづくりに関する科目を配置する。
- ② 2, 3学年では、機械工学の基礎的な能力を育成するために、工作法、材料学、材料力学、流体力学および情報・制御などに関する科目を配置する。
- ③ 4, 5学年では、機械工学の応用的な能力を育成するために、材料力学、熱・流体力学、機械システム、計測制御および機械系情報処理などに関する科目を配置する。
- ④ 1～5学年を通して、デザインマインド、実践的能力、論理的思考力、コミュニケーション能力を育成するために、設計製図、工作実習および機械工学実験などの科目を

配置する。さらに、問題解決能力・プレゼンテーション能力を育成するために、5 学年に卒業研究を配置する。

電気電子工学科

電気電子工学科では、上記の方針に則り、ものづくりのための基礎的知識や技術を身に付けた創造性豊かな電気電子技術者を養成するために、具体的には以下を教育方針として教育課程を編成し、教育を実践しています。

- ① 1 学年では、電気電子工学の導入レベルの能力を育成するために、電気基礎、情報処理、ものづくりの科目を配置する。
- ② 2, 3 学年では、電気電子工学の基礎的な能力を育成するために、電気回路、電気磁気学、電子回路、情報処理などに関する科目を配置する。
- ③ 4, 5 学年では、電気電子工学の応用的な能力を育成するために、電気回路、電気磁気学、電気機器、発変電工学、情報処理システムなどに関する科目を配置する。
- ④ 1～5 学年を通して、実践的能力、論理的思考力、コミュニケーション能力を育成するために、電気電子工学実験などの科目を配置する。さらに、問題解決能力・プレゼンテーション能力を育成するために、5 学年に卒業研究を配置する。

電子情報工学科

電子情報工学科では、上記の方針に則り、ものづくりのための基礎的知識や技術を身につけた創造性豊かな電子情報技術者を養成するために、具体的には以下を教育方針として教育課程を編成し、教育を実践しています。

- ① 1 学年では、電気電子工学と情報工学の導入レベルの能力を育成するために、電気基礎、情報基礎、リテラシーおよびものづくりに関する科目を配置する。
- ② 2, 3 学年では、電気電子工学と情報工学の基礎的な能力を育成するために、電気電子回路やハードウェア、ソフトウェア、ネットワークに関する基礎的な科目を配置する。
- ③ 4, 5 学年では、電気電子工学と情報工学の応用的な能力を育成するために、電磁気などの電気電子工学系科目と、情報理論、システム構築、人工知能などに関する科目を配置する。
- ④ 1～5 学年を通して、実践的能力、論理的思考力、コミュニケーション能力を育成するために、電子情報実験、創造工学演習などの科目を配置する。さらに、問題解決能力・プレゼンテーション能力を育成するために、5 学年に卒業研究を配置する。

物質工学科

物質工学科では、上記の方針に則り、化学的視点から材料工学あるいは生物工学を学び、より良い社会を実現するために貢献できる化学技術者を養成します。具体的には以下を教育方針として教育課程を編成し、教育を実践しています。

- ① 1 学年では、ものづくりや情報処理の導入レベルの能力を育成するために、専門基礎等に関する科目を配置する。
- ② 2, 3 学年では、物質工学の基礎的な能力を育成するために、無機化学、有機化学、物理化学、化学工学、分析化学、生化学、情報化学等に関する科目を配置する。
- ③ 4, 5 学年では、物質工学の専門性を深化させて材料工学あるいは生物工学の応用的な能力を育成するために、無機化学、有機化学、物理化学、分析化学、化学工学、生化学、情報化学等に関する科目に加え、材料工学コースでは材料に関する科目、生

物工学コースでは生物に関する科目を配置する。

- ④ 1～5学年を通して、実践的能力，論理的思考力，コミュニケーション能力を育成するために，実験などの科目を配置する。さらに，問題解決能力・プレゼンテーション能力を育成するために，5学年に卒業研究を配置する。

環境都市工学科

環境都市工学科では，上記の方針に則り，社会資本を持続可能にする土木技術者と建築技術者を養成するために，具体的には以下を教育方針として教育課程を編成し，教育を実践しています。

- ① 1学年では，環境都市工学の導入レベルの能力を育成するために，測量，情報処理，製図などの科目を配置する。
- ② 2，3学年では，環境都市工学の基礎的な能力を育成するために，構造・水・土の力学，計画，材料，衛生，測量，プログラミングなどに関する科目を配置する。
- ③ 4，5学年では環境都市工学の応用的な能力を育成するために，鋼及びコンクリート構造，河川，交通，施工管理，法規，建築の環境・設備・計画，数値解析などに関する科目を配置する。
- ④ 1～5学年を通して，実践的能力，論理的思考力，コミュニケーション能力を育成するために，設計製図と実験実習などの科目を配置する。さらに，問題解決能力・プレゼンテーション能力を育成するために，5学年に卒業研究を配置する。

一般科目教室自然科学系

一般科目教室自然科学系では，幅広い教養と専門科目に必要となる数学，理科（物理，化学，生物）の基礎的な知識，技能の修得に加え，生涯にわたって活力あふれる生活を営める人材を育成します。具体的には以下を教育方針に基づいて教育課程を編成し，教育を実践しています。

低学年（1年～2年）

数学科では，数学の基礎的な知識と計算技能を身に付け，数学的論理を通して思考力，表現力を育成するために，解析および代数分野の基礎的な科目を配置する。

物理科では，力学，波動，電気現象を抽象的に記述できる能力を育成するために，物理基礎，物理の科目を配置する。

化学科では，自然や生活環境における化学の基本的な概念や原理・法則を理解できる能力を，生物科では，生命科学の基本概念を理解できる能力を育成するための科目を配置する。

保健体育科では，種々のスポーツを各自の体力やスキルに応じて実施できる能力を育成するための科目を配置する。

高学年（3～5年）

数学科では，現象を数学的にとらえ，問題を解決する能力を育成するために，解析および代数分野の応用的な科目と確率統計の基礎的な科目を配置する。

物理科では，物理現象への理解をさらに深め，工学への応用力を育成するために，応用物理の科目を配置する。

保健体育科では，自己の体力を的確にとらえ，生涯にわたって主体的に運動を継続するための能力と，健康管理の一環として生活習慣病の予防について理解できる能力を育成するための科目を配置する。

一般科目教室人文社会科学系

一般科目教室人文社会科学系では、豊かな教養とコミュニケーション能力を身に付けた人材を育成します。具体的には以下を教育方針として教育課程を編成し、教育を実践しています。

低学年（1～2年）

国語科では、小説・随筆といった、日常的ないし過去の時代から受け継がれている言語作品に触れ、その読解および鑑賞に習熟し、さらにその題材の選び方や技法を自らの表現法として会得できる能力を育成するための、国語の分野に関する基礎的な科目を配置する。

社会科では、社会の地域的特色と歴史的背景を理解し、人間の在り方や生き方について把握する能力を育成するために、歴史や倫理などを学ぶ科目を配置する。

英語科では、4技能の調和に基づく実践的なコミュニケーションの基礎能力を育成するための科目を配置する。

高学年（3～5年）

国語科では、すぐれた現代文を読み味わうとともに、手紙から意見文に至る実用的かつ社会とつながる文章の作法や読解法を習得するといった、国語分野に関する実践的な科目を配置する。さらに意欲に応じて日本語学・国文学の所産とその方法論に触れ、学術的な見識を高めるための科目や、これまで学んできた基礎を応用した文章作成能力、口頭能力を育成するための科目を配置する。

社会科では、現代の政治や経済、国際関係などを理解し、社会の変化の本質を批判的に認識できる能力を育成するために、政治や法、経済などを学ぶ科目を配置する。

英語科では、より深い読解能力、聴解能力の養成を中心に、総合的なコミュニケーション能力を育成するための科目を配置する。

5 学科案内

本校は、次の5学科と一般科目教室で構成されています。

機械工学科

航空機や自動車、ロボットなどの仕組みを学び、情報通信や制御と融合した、便利で、豊かな暮らしを創造する技術者を育成します。

電気電子工学科

情報・通信から光・電子デバイス、材料、エネルギーまで幅広い知識を学び、「地球にやさしく、人にやさしい21世紀」をつくる技術者を育成します。

電子情報工学科

今や、社会になくてはならない「情報」。これを活用するために必要なソフトウェア・ハードウェア・ネットワークをサポートできるエンジニアを育成します。

物質工学科

産業の基になる素材「物質」を化学の視点で学び、光ファイバーや超伝導体、半導体、バイオテクノロジーなど化学を人のために活かせる技術者を育成します。

環境都市工学科

土木構造物や建築物のデザインや環境計測の方法などを学び、自然と調和した、安全で住みやすいまちづくりができる技術者を育成します。

一般科目教室

高等学校(普通科)での教育課程に、さらに大学の教養課程と同レベルの教育内容をプラスしたカリキュラムが組まれています。国語・数学・英語・理科・社会の5教科、保健体育はもちろんのこと、外国語は英語だけではなくドイツ語や中国語まで、情操教育として音楽や美術、さらに哲学や工学倫理など、その分野は多岐にわたっています。

6 クラス編成

1学年は、入学学科や男女比を均等にしたクラス編成を行います。2学年からは、所属学科の学生のためのクラスになります。

7 各種施設・学生会活動

(1) 各種施設

学生の利用できる施設としては、野球場、陸上競技場、体育館、武道場、テニスコート、プールなどの体育関係施設及び図書館、福利厚生施設、合宿所（心和館）、学生食堂などがあります。

(2) 学生会活動

本校には学生全員をもって構成する学生会があり、学生生活における集団活動としての積極的参加、自発的な活動による自主性、人間関係の助長を目的として活動しています。現在活動している主な部活動は次のとおりです。その他、同好会も複数あります。

・体育関係

男子バスケットボール部、女子バスケットボール部、男子バレーボール部、女子バレーボール部、水泳部、ハンドボール部、ソフトボール部、ラグビー部、サッカー部、剣道部、テニス部、硬式野球部（高学年、低学年）、卓球部、陸上部、バドミントン部、ソフトテニス部、少林寺拳法部、合気道部、軟式野球部

・文化関係

吹奏楽部、囲碁・将棋部、モダンミュージック部、英語部、ロボット部、アマチュア無線研究会、放送・メディア研究会

8 入学時に要する経費

費 目		金 額	備 考
入 学 料		84,600円(予定額)	
授 業 料		234,600円 (予定額)	(年額) ※保護者の所得に応じ、就学支援金の助成があります(就学支援金の額は年額118,800円～234,600円)。
その他の 必要経費	教科書代・学用品代等	80,000円	概算（学科により異なります）
	日本スポーツ振興センター災害共済給付掛金	1,550円	年 額
	学生会会費	7,000円	年 額
	教育後援会費	34,000円	入会金10,000円, 年間会費24,000円

(注) 規則が改正された場合は、金額が変更になることがあります。

在学中に授業料改定が行われた場合は、改定時から新授業料が適用されます。

その他、制服代等が必要となります。

9 入学料・授業料の免除及び入学料徴収猶予

(1) 入学料免除

入学前1年以内において、入学者の学資を主として負担している者（以下、「学資負担者」）が死亡したり、風水害等の災害を受けた場合、その他やむを得ない理由により入学料の納付が著しく困難であると認められる場合には、選考の上、入学料の全額又は半額を免除することがあります。

(2) 授業料免除

本科1～3年生は、就学支援金制度による助成があります。免除額は家計基準により決定します。

本科4年生以上は、2020年度からスタートした高等教育の修学支援新制度により、授業料減免の申請者は、独）日本学生支援機構の給付奨学金も併せて申請することになります。独）日本学生支援機構の給付奨学生に採用された学生は、毎月の給付奨学金に加え、授業料減免も同時に受けられます。免除額は、給付奨学生採用時の支給区分により決定します。

※給付奨学生は、独）日本学生支援機構の定める規定をもとに、家計基準と学力基準により決定されます。

(3) 入学料徴収猶予

経済的理由により入学料の納付が困難であり、かつ学業優秀と認められる場合、入学前1年以内において、学資負担者が死亡した場合、入学前1年以内において、入学者又は学資負担者が風水害等による災害を受け、納付が困難であると認められる場合には入学料の徴収を猶予することがあります。

10 奨学制度

独）日本学生支援機構の規定に基づき、学業・人物ともに優れ、かつ、健康であって学資の支弁が困難と認められる者に対し、本人の申請に基づき選考の上、独）日本学生支援機構から奨学金が給付または貸与されます。

なお、2020年度からスタートした高等教育の修学支援新制度により、給付奨学生に採用された学生は、学校の授業料減免も受けられます。

このほかに、地方公共団体や各奨学育英団体等の奨学金制度もあります。

〈参考〉①貸与奨学金月額（令和3年度）

奨学金の種類	区 分	通学方法	貸 与 月 額			最高月額
第 一 種 (無利子)	1～3年生	自 宅	10,000円	21,000円		
		自宅外	10,000円	22,500円		
	4・5年生	自 宅	20,000円	30,000円		45,000円
		自宅外	20,000円	30,000円	40,000円	51,000円
第 二 種 (有利子)	1～3年生					
	4・5年生	20,000円～120,000円（10,000円刻み）				

※申込時における前年1年間の家計収入が一定額以上の方は、各区分の最高月額以外の月額から選択することになります。

②給付奨学金月額（令和３年度）

第４学年以上	世帯の所得金額 に基づく区分	自宅通学	自宅外通学
	第Ⅰ区分	17,500円 (25,800円)	34,200円
	第Ⅱ区分	11,700円 (17,200円※)	22,800円
	第Ⅲ区分	5,900円 (8,600円※)	11,400円

※生活保護（扶助の種類を問いません。）を受けている生計維持者と同居している人及び児童養護施設等から通学する人は、上表のカッコ内の金額となります。

11 学生保険制度

授業又は課外活動中の不測の事故に対し、医療費、災害見舞金等の給付を受ける日本スポーツ振興センター災害共済があります。これには、本校の学生は全員加入しています。

12 学 寮

自宅からの通学が困難な者のため、定員244人（うち女子56人）の学寮が校内に設置されており、申請に基づき選考の上、入寮が許可されます。

なお、入寮経費は次のとおりです。

費 目		金 額	備 考
寄 宿 料（1人室）		800円	月 額（相部屋700円）
その他の 必要経費	寮 費（光熱水費等）	6,000円	月 額
	食 費	24,000円	月 額（概算）
	エアコンリース代	1,900円	月 額
	食 器 代	4,400円	入 寮 時
	寮 生 会 費	2,000円	年 額

（注）個人で使用した電気料は別途必要となります。

13 卒業後の進路

（1）就 職

卒業生は、産業界、官公庁等の広い分野において、大学卒業者と同じような職種に従事し、優れた技術者として高い評価を得て活躍しています。

（2）進 学

進学を希望する者に対しては、本校を含めて高等専門学校に設置されている専攻科（本科卒業後の2年課程）への進学や大学の3年次への編入学の制度があり、本校卒業生もこれらの制度を利用して、最近３か年では、208名が進学しています。

なお、令和３年度の進学者は63名で、進学先は次のとおりです。

福井工業高等専門学校専攻科、東北大学、茨城大学、宇都宮大学、千葉大学、東京農工大学、長岡技術科学大学、信州大学、福井大学、岐阜大学、名古屋大学、豊橋技術科学大学、三重大学、九州大学、東京都立大学

チェックシート（出願前の確認にご利用ください。）

推薦 選 抜	☐ ①令和4年度の次の書類が全部そろっていますか。 ☐ 入学願書 ☐ 推薦書 ☐ 自己推薦書（推薦要件イ，ウのみ） ☐ 調査書 ☐ 写真票・受験票 ☐ 受験票送付用封筒（郵送で出願する場合のみ）
	☐ ②入学願書に検定料振込受付証明書を貼付していますか。
	☐ ③検定料振込受付証明書には金融機関の受領印がありますか。
	☐ ④推薦要件イで出願する場合、活動結果を証明できる資料の写し（賞状・要項・学級新聞等）が推薦書に添付されていますか。
	☐ ⑤「合格内定とならなかった場合の学力選抜受験希望の有無」欄の「有」・「無」いずれかを○で囲んでありますか。
	☐ ⑥上記⑤において「有」を○で囲んだ場合、「志望学科」欄に志望学科が記載されていますか。
学 力 選 抜	☐ ①令和4年度の次の書類が全部そろっていますか。 ☐ 入学願書 ☐ 調査書 ☐ 写真票・受験票 ☐ 受験票送付用封筒（郵送で出願する場合のみ）
	☐ ②入学願書に検定料振込受付証明書を貼付していますか。
	☐ ③検定料振込受付証明書には金融機関の受領印がありますか。
	☐ ④「受験地」を1つ選び○で囲んでありますか。
そ の 他	☐ ①裏面の注意事項を参照し、かい書で分かり易く記載されていますか。
	☐ ②調査書、推薦書においては日付が正しく記載されていますか。
	☐ ③調査書、推薦書において学校名が記載され校長印及び記載責任者印が押印されていますか。

※推薦要件ウにて出願の場合は、令和3年11月22日（月）までに、本校学生課入学試験係にご連絡ください。
 ご連絡のない場合は、この要件での出願はできません。



Since
1965

Creativity
and
Curiosity

福井高専